

- 1 題材名 「世界・科学の問い」
- 2 考える価値内容 世界・科学などに関わるもの
- 3 題材について

子どもたちが「てつがくすること」(営み)を、私は以下のように考えている。

- ①自分(たち)にとって当たり前、常識と思われることを、互いに「問いなおす」営み。
- ②理性や感情を働かせて、互いに「広く、深く考える」営み。
- ③安易に答えを出すことなく、互いに「徹底的に考え続ける」営み。

「てつがく」をはじめたばかりの3年生には、本来、スピーチ(日々のサークル対話)や絵だよりといった、子どものたちの生活の中から出てきた「問い」を扱うのが自然だろう。「席替えは必要か」といった「問い」である。こうした「問い」は、実際の体験を想起しやすく、理性や感情を働かせながら話し合うことが容易で、3年生の「てつがく」には適した題材である。しかし、生活とは直接結びつかないような、「難しい問い」「抽象度の高い問い」でも、子どもたちは抵抗なく向き合おうとするものである。子どもたちが「話し合ってみよう」と発した問いは、内容や文言を教師が十分に吟味した上で、どんな問いでも向き合ってみようと考えている。2学期には『「ある」ってどういうことだろう?』という、哲学における根源的な問い(存在論)について扱ったが、教師が予想した以上に、活発な対話が見られた。こうした哲学の本質に迫るような、解決の難しい問いであるからこそ、「てつがく」の探究力を大きく伸ばすのだと思う。「問いに年齢制限はない」というのが、私の新教科「てつがく」の理念である。

1学期は「心のとげって何だろう」「ストレスをなくすにはどうしたらよいのだろう」といった、主として「自己・感情」・「他者・社会」に関する「問い」を扱ってきた。2学期は、今までに実践例の少ない「世界・科学」の「問い」を模索してきた。これは、子どもたちの希望調査でも、最も回答数が多い内容である。また、私の専門分野である理科教育とも関連が深く、最も実践研究してみたい分野でもある。本授業でも、この分野に焦点を当ててみたい。

子どもへのアンケート調査や、「振り返りカード」の記述からは、「地球」「宇宙」「自然」「生命」「人体」「物性」「科学技術」「超自然(幽霊・超常現象)」「前世・死後の世界」「時間・空間」など多岐にわたっている。3学期の初めに、もう一度「テーマについての対話」をして、決定したい。

4 本時の学習について(3時間目/全5時間の予定)

(1) 本時のねらい

「世界・科学」に関する子どもたちと考えた、本題材の「テーマ」をもとに設定した本時の「問い」について対話し、安易に答えを出すことなく、互いに徹底的に考え続ける。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1. 前時を振り返り、本時の「問い」を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の対話をもとにした、本時の「問い」について共有し、何を問うのか(何の意味を話し合いたいのか)を明らかにする。 ・ 子どもたちの対話の流れを妨げない範囲で、教師も発話する。新たな問いは妨げないが、問いの方向性が逸脱した時は、修正する。 ・ 「〇〇さんの～～という発言で、自分の考えはこう変わった」といった、思考の変化、対話を終えての自分の思い、発言できなかったこと、次に話し合ってみよう「問い」などを書く。
2. サークル対話をする。	
3. 振り返りカードを書いて、シートに貼る。	

□授業後の話し合いで話題にしたいこと(授業観察の視点)

- ・ 「科学・世界」についての本題材の「テーマ」や、本時の「問い」が3年生にとって適切だったか。
- ・ 対話を通じて、安易に答えを出すことなく、互いに「徹底的に考え続ける」営みが見られたか。